

自然体で暮らす／いなか王国・高知県安田町

まんま

Vol.4

Enjoy Country Life
YASUDA CHO

「第4号」2002 SEPTEMBER 9



安田町
ふるさと便
Vol.4



清流、安田川が育んだ
なかなかの新米

●ふるさとの味をお届けします●

ふるさと便では、安田町の郷土産品を全国発送いたしております。

中山米「ひのひかり」

寒暖の差が激しい谷間の気候と清らかな水によって
丁寧に育て上げられた土佐の逸品です。

中山米「ひのひかり」

10kg **4,305円**

※送料別・消費税込

詳しいお問い合わせ
ご注文は下記まで
お電話またはFAXでどうぞ。

JA土佐あき中山支所／〒781-6430 高知県安芸郡安田町大字正弘694-2

TEL.0887-39-2031 FAX.0887-39-2411

編・集・後・記

“まんま”を見てくれた人らあが、感想や意見の手紙、FAX
を送ってくれて、そらあもううれしゅうてたまらん。これから
もいろんな事を記事にするき、何か思いついたら教えてや。



お問い合わせは

安田町役場企画室

〒781-6421 高知県安芸郡安田町大字安田1850
TEL.0887-38-6713 FAX.0887-38-6780
E-mail yasuda@wide.net-kochi.gr.jp

安田町役場中山支所／〒781-6430 高知県安芸郡安田町大字正弘716-2
TEL.0887-39-2008 FAX.0887-32-4008



旧／開拓の風景

安田町

なつかしい風景があつて、そのままの自然があつて、あつたかい人が迎えてくれる。気負いのない力強さや、やさしさが、この町にはあります。



Contents

13 11 10 9 7 3

ごめん・なはり線
いよいよ開通

人物紹介

安田町の今を語る

神峯山

樹齢およそ九百年の大樟

中山の夏まつり

今昔写真館

なつかしマップ



ごめん・なはり線が
いよいよ開通したまわ。
早く乗り帰ってきいや。



唐浜駅



オープンデッキ形の車両は、人気の、海沿いの風光明媚な景色が満喫できる。



安田駅で開かれた開通式典



車窓からのぞむ清流安田川

これまでは国道55号だけだった東部の交通ルートが増えたことで、様々な効果が期待されている。
車窓から雄大な太平洋が望める展望の良さに加えて、「アンパンマン」の作者、やなせたかしさんが全駅のキャラクターなどを提供するなど話題性も抜群。通勤、通学はもちろん、東部観光の足としても活躍してつた。



海岸線ぞいに並びビニールハウス

ぼつかりと穴を開けて使われないままのトンネルや、いつまでもつながらない高架橋。ふるさとの風景の中で、ちよつと不思議な存在だったあの線路が、7月1日についに開通した。南国市・後免と奈半利町の間約43キロ、奈半利・高知間を最短1時間8分で結ぶ「ごめん・なはり線」。
構想から80年、工事着工から37年という年月を経ての開通だけに、県東部の悲願が達成というところだろう。



やすだアユ君

● とうのはまへんろ君



ごめん・なはり線



自慢の鮎寿司を買いに 香川県からも 来てくれちゅうよ

「鮎の里ゆうすい」で働いていま。普段は通勤や通学で利用する人が多いけど、お盆はごめん・なはり線で安田町に帰省した人も結構あったわね。なつかしい顔に会うことができました。

て買ってくれる人もおる。香川や愛媛の人も来たくらいよね。鮎は安田町の自慢やき、うれしいことです。新鮮な野菜やナスのパウンドケーキも喜ばれちゅう。

私自身は、まだ1回しか乗ったことがないがやき、やっぱりデッキのあるのには、ぜひ乗ってみたいと思ってます。



●安田町中ノ川
中西 昭子さん



唐浜駅

安田町内には、唐浜駅と安田駅の2つの駅がある。どちらの駅も木がそこ、ここに使われたいかにも高知らしい造り。車椅子にも対応したバリアフリーで、使いやすい駅になっている。安田町では地域活性化につなげようと、安田駅に隣接した地場産品

販売所「鮎の里ゆうすい」を建設。地元のとれたて野菜やアユの姿寿司などが並ぶ。地元の利用者と観光客の両方に配慮した品揃えに、細やかな心遣いが感じられる。潮風の中を走りぬける、ごめん・なはり線。ふるさとの海を眺めながらの小さな汽車の旅を、今度の帰省ではぜひ体験して欲しい。



とうのはま へんろ君

©やなせたかし



安田駅にある
鮎の里「ゆうすい」



やすだ アユ君

©やなせたかし

開通直後に乗りこいたわね、1日に2回も。まあ、その時は混んじよったけど、今は落ち着きたみたいやね。安田町にとっては生活の足になる訳やき、マイペースでやっていけばいいと思いう。

お年寄りの人は喜んじゅうよ。高知市の病院やら野市のスーパーやらに行きやすくなっただけ。行動範囲が広がるがやないろうか。通勤に使う人もおるようやし。私も普段の移動は車やけど、夜須のヤ・シイパークで宴会をするのに「ごめん・なはり線」を使おうと計画中です。



●安田町安田
中村 君子さん

お年寄りの人が
買い物に行きやすくなっ
たと。
能のえいことよね。

中山地区で約40年前に1回だけ行われた夏祭りが、8月31日、中山小中学校体育館に復活。500人近い人出で賑わった。かき氷などの露店やフリーマーケットが並んだほか、ステージではプロ歌手らのコンサートやプロボクサーのパフォーマンス、小川獅子舞などが行われ大いに盛り上がった。



珍しい鯉すくい

中山の夏まつり

安田町中山

なつかしい祭りが帰ってきたさわ



ステージでコンサートを行った「豆電球」こと小松秀吉さん

●安田町内京坊
小松秀吉さん(50歳)
中山夏まつりの実行委員の一人。地元有志によって、まったくの手作りで祭りを開催できたことを喜ぶ。「祭りによって地域の結びつきが一層強まった。みんなで作り、みんなで楽しんだ祭り。中山地区の睦みの二つとして、来年からもぜひ続けていきたい」



竹内範明さん(54歳) ●安田町東島

通勤時間3時間 それだけの価値が安田にはある

午前6時30分。ごめん・なはり線安田駅に、竹内範明さんがやってくる。これから1時間半。職場のある高知市まで、汽車に揺られて通勤する。農林水産省高松食糧事務所高知事務所に勤める竹内さんにとって、この通勤時間の長さは少しも苦にならないという。

「マイカー通勤でしたが、今はごめん・なはり線を利用しています。安田駅からは座っていただけますので、楽ですよ。もう一眠りもできるし、本も読めるし」

高知市内に住んだこともある竹内さんだが、生まれ育ったところに住みたいと帰郷した。

「子どもの頃は川で遊び、海で遊び、山で遊んだ。夏になるとカヌツキを持って、毎日安田川に出掛けたもの。その場所ですらなくなった」と竹内さん。



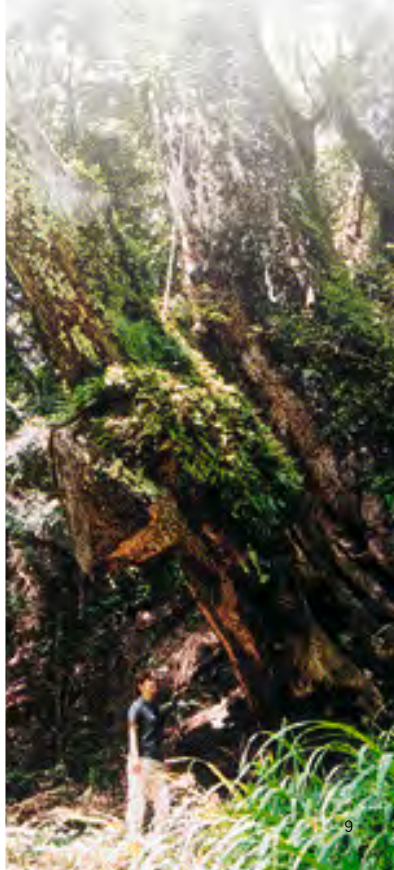
農林水産省高松食糧事務所高知事務所にて

毎年行われる同窓会では、県外に住む同級生から「やっぱり故郷はいい」と声が上がるといふ。通勤時間を費やす価値のある場所。田畑があり、鮎が採れる川とともにある故郷での生活の贅沢さを、竹内さんは大切にしている。

大樟

おおくす

おまんは覚えちゆうかえ。神峯神社のでつかい木のことを。相変わらずどつしりと、安田のことを見守りゆうぜ。



古来より安田の町を見続けてきた神木、神峯の大樟。神峯神社の本殿前に鎮座している姿は、圧倒的な雰囲気漂わせている。子どもの頃、何度も見たこの木の威容が、大人になって初めて分かる。

遠足で登った神峯。きつい山道に閉口し、あたりの様子に目を配る余裕すらなかったような思い出がある。しかし

のように、小銭が置かれている。「久しぶりやね」。そんな、なつかしさが込み上げてくる。

さらに上を目指すと、晴れた日は遠く足摺岬まで望める展望台へとたどり着く。森の息吹と降り注ぐ太陽、そしてきらめく海の照り返し。安田町の豊かさが集まるここは、まさに大樟の住まる場所にふさわしい。

し年齢を重ねた今、神峯は思いもかけない親しみを持って迎えてくれた。幼い頃に歩いた道は豊かな緑に囲まれて、さわやかな風が吹きぬげる場所だった。

落ち葉の折り重なった坂道を、一歩、一歩踏みしめて。顔を見上げると天を突く大樟の太い幹。その根元のうろには、巨木に宿る神様にささげるか

●安田町唐浜
長野豊さん(56歳)



神峯のふもとで自然薯やら作っています。展望台の周りもキレイに整備されちゆうき、安田に帰ってきた時はぜひ遊びに寄ってほしいね。

神峯山



四国霊場27番札所 神峯寺

神峯神社のすぐ下にあり、竹林山と号し真言宗豊山派に属します。本尊は行基作と伝える十一面観音、開基は聖武帝の天平2年本尊を安置し、神と共に祀ったと伝えられており、一年を通して参拝者が絶えません。



神峯神社

神峯神社本殿(県保護有形文化財(建造物))は、枋葺三面入母屋造り、三面は千鳥破風、正面は半唐破風仏堂式で、拝殿本殿を兼ねた珍しい建物です。参拝者も多く、秋の例祭は県内有数の祭りとして大いに賑わっています。



神峯山・空と海の展望公園

自然を生かした自然公園で、公園中央には室戸岬から足摺岬まで一望できる高さ23mの展望塔があります。園内には花木の庭園、芝生広場、ログハウス風の休憩所、遊歩道などが整備されており、家族みんなで自然を満喫できます。



旧／安田中学校



新／安田中学校



新／中山ふるさと市



旧／安田町商店街 (高知新聞社提供)



新／地場産品販売所「ゆうすい」



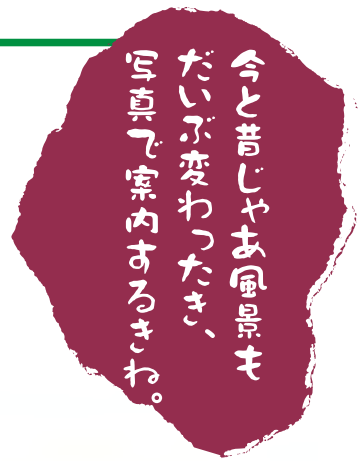
新／神峯山の杉



旧／安田川



旧／安田町 (高知新聞社提供)



新／結いの丘ドーム



新／安田駅



新／観光案内板 (唐浜駅)



新／新東西島橋 (高知新聞社提供)

マツプ なつかし



- 空と海の展望公園
- 神峯神社
- 神峯寺



「同行二人」が刻まれた ダルマのようなモニュメント!?

神峯山にある石像は、お遍路さんの無事を願って「同行二人」の文字を刻んで作られたものです。



碑?それとも祭壇!? なんとも不思議な大石

西島にある幅2m20cm、高さ85cmの台座のような大石。いったい誰が、どんな目的で作ったのか…。

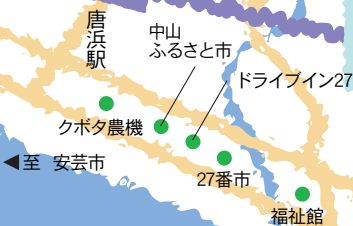


七人ごろ

むかし船倉集落に七人の落人が逃げのびて来たが逃げきれず、ついには斬死してしまっただ。その後、村に祟りが起こり村人たちは祠(ほこら)を立てて七人の霊を慰めた。それから祟りは無く、今も祠の付近からは武具などの破片が掘り出されることがあるという。

“あわてこさ”の末さん

中山のある集落に末さんと言う人がいた。非常な“あわてこさ”で牛を川へ洗いにいくと杭につなぐつもりが自分の足につないでいたり、ウケダマを腰にさし川へ鮎をかけたて行くと、ウケダマのつもりがドランで鮎をうけて大笑いになったり…。他にも弁当と間違えて猫を風呂敷に包んだり、足に巻くゲートルを柱といっしょに巻き付けたこともあったと伝えられている。



昔ながらの風情が残る これは街灯?

町の三叉路にいくつかあり、木箱の中には商売繁盛を願って金比羅様のお札が祭られています。



化かされた狸

安田に鶏買いの権七がいた。ある日、田野町からの帰りに渡船場で渡し船が来るのを待っていると、一匹の狸が化けようとしていた。いたずら好きの権七が狸に「俺は鶏買いに化けたが、お前は何に化けるか」と尋ると「何に化けようかと考えている」と答えたので「そんなら鶏に化けないうか、そしたら俺が籠に入れて向こう岸に渡してやろう」。そう権七が言うとき狸は大喜びで鶏に化けた。権七はそれを鶏籠に入れて対岸に渡り、そのまま家に帰って豆腐汁にして食べてしまった。人を化かす狸が、反対に人に化かされた面白い伝説である。